

第8回日本放射線事故・災害医学会 年次集会概要
被ばく医療で目指すべき線量評価のあり方

大会長： 栗原 治
量子科学技術研究開発機構 量子医学・医療部門 高度被ばく医療センター

日時： 2020年10月3日(土) 13:25 – 17:00

会場： ウェブ開催
量子科学技術研究開発機構

理事会： 学術集会終了後直ちに開催(17:00以降)

総会： 13:00 – 13:25

参加費： 会員 無料 非学会員 2,000円

プログラム

- 13:25 – 13:30 開会挨拶
- 13:30 – 14:10 基調講演1 「我が国における被ばく医療の経験」
座長 栗原 治(量子科学技術研究開発機構)
演者 前川 和彦(社会医療法人東明会原田病院)
- 14:20 – 15:00 特別講演 「放射線輸送シミュレーションに基づく線量評価」
座長 古渡 意彦(量子科学技術研究開発機構)
演者 佐藤 達彦(日本原子力研究開発機構)
- 15:10 – 15:50 基調講演2 「我が国の被ばく事故における線量評価の経験と課題」
座長 古渡 意彦(量子科学技術研究開発機構)
演者 栗原 治(量子科学技術研究開発機構)
- 16:00 – 16:40 パネルディスカッション
多様な被ばく事故に対峙する被ばく医療の立場から必要とされる線量評価の質や精度、また今後取り組むべき技術開発等について議論する。
座長 明石 真言(東京医療保健大学)
パネリスト 鈴木 元(国際医療福祉大学クリニック)
床次 真司(弘前大学)
百瀬 琢磨(日本原子力研究開発機構)
栗原 治(量子科学技術研究開発機構)
- 16:40 – 17:00 閉会および次期大会長挨拶